

KINDAI KENCHIKU

February

Vol.78  
2024

# 近代建築

# 2

特集

## 物流施設の計画と設計2024



# DPL 新横浜Ⅲ

基本計画・デザイン監修/大和ハウス工業  
設計・監理/浅沼組一級建築士事務所  
施工/浅沼組



写真提供: 左/DPL新横浜I, DPL新横浜II, DPL新横浜III

## 計画概要

グローバル物流拠点となるDPL新横浜を  
補完する都市型物流施設

本建物は、首都圏東北IC付近の中核施設として計画され、昨年竣工したDPL新横浜I・IIに連なる3棟目の物流施設である。都市計画の上位方針では、本事業地において、親水空間や緑、既存農地の保全とのバランスを

取りながら、「ヒト、モノ、コト」の新たな関係であるロジスティクス産業の誘致・集積を促進し、次世代の人々を惹きつける戦略的な土地利用誘導によるまちづくりの一環としての事業施設を実現することが要求された。計画地に隣接する鶴見川沿いの桜並木は、近隣の憩いの場としても、サイクリングロードや野鳥観察の場としても活用される自然豊かな

親水空間であり、四季を通じて地域住民に親しまれていく。先行したDPL新横浜I・IIの開発にあたっては、こうした魅力的なオープンスペースを施設に取り込み、建物の内と外が交わりあう関係をつくり出すことを目指した。今回のDPL新横浜Ⅲでの設計においても同様の一連の施設群として通底するコンセプトを採用し、内と外をつなぐ計画とした。これにより、今までの物流施設に付きまとう閉鎖的なイメージを払拭し、これからの働く環境に対応したワークスタイルを提供することで、物流施設を中心とした新しいまちづくりの一翼を担うことを目指した。

—新たなオープンスペースとの一体的な施設計画  
計画地の南側には、土地区画整理事業に伴い近隣公園が整備された。公園と当該施設との視覚的・心理的な一体感を演出することで、地域に溶け込んだ魅力的な物流施設としてのあり方を提案した。物流施設特有の巨大なボリュームに対し、DPL新横浜I・IIで統一



配線図 概尺1/3,200



上/商業開発外観 左下/東側外観 右下/南側登壇緑化

されたデザインコード(景観条例による上層と下層の色彩・節制規程に対応)を踏襲し、白色を基調としたグラデーション状の色彩計画を採用することで、空にとけ込むような清らかな表情をつくり出した。一方で下層部のヒューマンスケールに対応する部分ではステンレスワイヤーによる軽やかな壁面緑化を採用し、新たに生まれた隣接公園との連続性を演出した。こうした所作により周辺環境への圧迫感を可能な限り抑制しながら、地域に溶け込んだ物流施設としての行まいを提案した。

—外部環境と緩やかにつながる、誰もが能力を発揮できる執務環境づくり  
ロビーやドライバーステーションといった施設利用者のパブリックスペースは、再生木材によるサイディングやリズミカルに変位する木調のルーバー材、土地の記憶を想起させる左官材といった素材を採用し、さらに緊張感を和らげる色温度を抑えたライティング計画や、温かみのある寛ぎの空間構成とした。

緑豊かな外部環境を取り込むための大きな開口部により内外をゆるやかにつなぎとめ、開放的で魅力的な共用空間を付加価値として設け、「切り替える」、「集中する」、「くつろぐ」といった多様なアクティビティに対応するフレキシブルなワークスペースを演出した。

—災害時は物資拠点としての物流施設  
本建物は「災害発生時における物資の保管等に関する協定」を締結し、災害時に県から協力要請があった場合は、物流施設内の空きスペースを国等からの緊急支援物資の受入拠点として提供することとなっている。平時だけでなく有事においても地域に向けた物流施設を目指した。

—新しいはたらき方による新しいまちづくりのかたちを目指して  
2024年問題を契機として物流ワーカーの労働環境改善が図られる一方で、サービスの停滞が懸念されている。ソフト面での対応と並行して、物流施設としてハード面の整備に

ついてもしっかりと取り組み、統合的でバランスの取れた解決策を検討することが求められている。

DPL新横浜Ⅲでは物流施設というプログラムを周辺環境や公園につなぎ合わせ、新しいまちづくりの基盤施設に据えることで、「ヒト、モノ、コト」のつながりのある労働環境を提供し、持続可能で魅力的な次世代のコミュニティの創造を目指した。本建物の竣工とともに完了した土地区画整理事業を通じたデザインプロセスが、新たなまちづくりの起点となることを期待している。

(監修: 浅沼 敦、青木 久/大和ハウス工業)



監修 敦——さいとう あつし  
1978年生まれ。2006年東京工業大学大学院総合工学研究科人間環境システム専攻修士課程修了。2006年大和ハウス工業入社。現在、同社南関東支社建築設計部第一課、主任技術者

